

D | AMグローバル・アクティブ・バランスファンド

<愛称：クラシックエイト>

追加型投信／内外／資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、実質的に国内外の債券、株式、不動産投資信託証券へ分散投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2020年11月10日～2021年5月10日

第163期	決算日：2020年12月8日	
第164期	決算日：2021年1月8日	
第165期	決算日：2021年2月8日	
第166期	決算日：2021年3月8日	
第167期	決算日：2021年4月8日	
第168期	決算日：2021年5月10日	
第168期末 (2021年5月10日)	基準価額	8,571円
	純資産総額	2,181百万円
第163期～ 第168期	騰落率	15.0%
	分配金合計	60円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

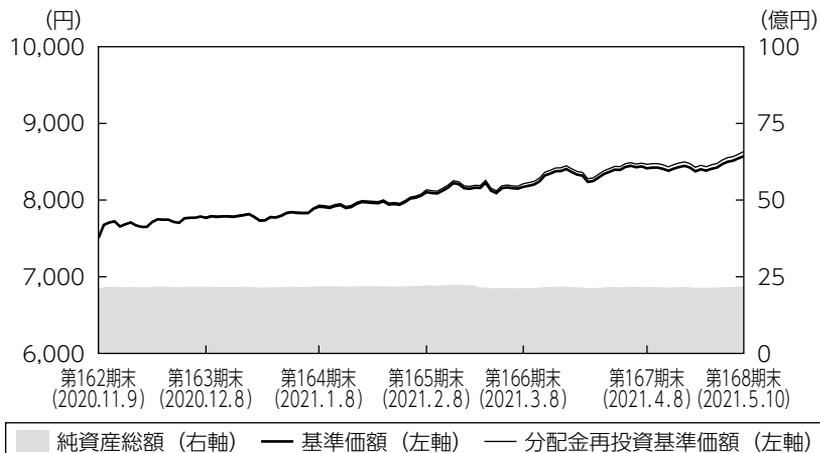
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第163期首： 7,505円
 第168期末： 8,571円
 (既払分配金60円)
 騰落率： 15.0%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

主要国による大規模な財政出動と金融緩和策によるサポートを好感したことや、新型コロナウイルスのワクチンの普及による経済正常化への期待等を背景に世界的に株式市場とリート市場が上昇したこと、為替市場で内外金利差が拡大したこと等を背景に主要通貨に対し円安現地通貨高となったこと等がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
国内債券アクティブ・マザーファンド	△0.1%
高金利ソブリン・マザーファンド	9.1%
D I A M 日本好配当株オープン・マザーファンド	23.7%
D I A M 世界好配当株オープン・マザーファンド	27.7%
J - R E I T オープン・アクティブ・マザーファンド	21.9%
D I A M U S ・リート・オープン・マザーファンド	35.9%
D I A M インターナショナル・リート・インカム・オープン・マザーファンド	27.0%
D I A M 新興国債券マザーファンド	8.6%
D I A M B R I C S 株式マザーファンド	8.8%

1 万口当たりの費用明細

項目	第163期～第168期		項目の概要
	(2020年11月10日 ～2021年5月10日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	53円	0.658%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は8,070円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(24)	(0.301)	
(販売会社)	(26)	(0.318)	
(受託会社)	(3)	(0.038)	
(b) 売買委託手数料	1	0.015	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	(1)	(0.014)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	1	0.007	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(1)	(0.006)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	9	0.115	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
(保管費用)	(8)	(0.105)	
(監査費用)	(0)	(0.001)	
(その他)	(1)	(0.009)	
合計	64	0.794	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

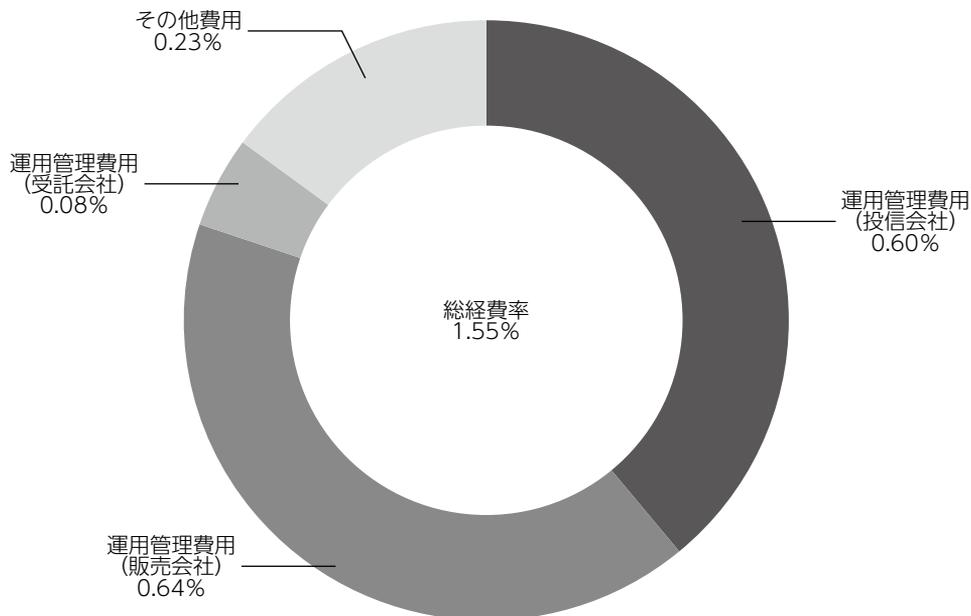
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.55%です。



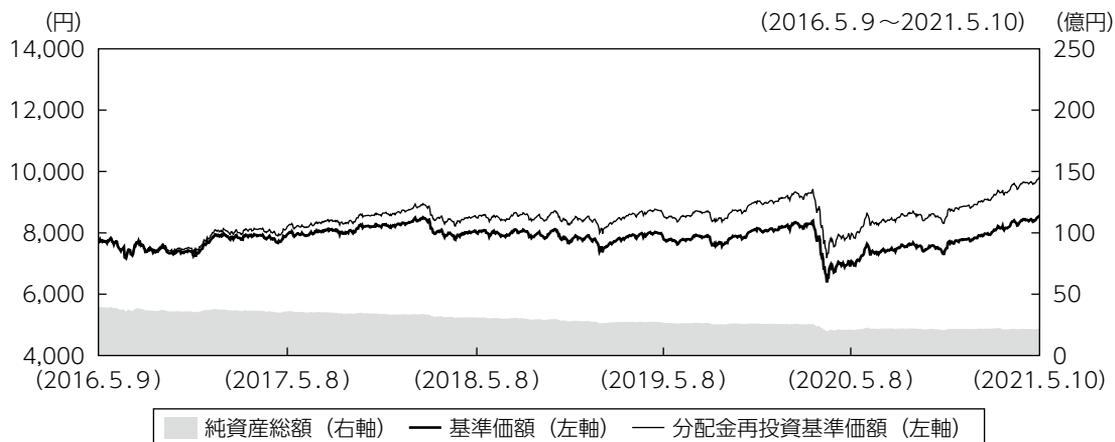
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2016年5月9日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2016年5月9日 期首	2017年5月8日 決算日	2018年5月8日 決算日	2019年5月8日 決算日	2020年5月8日 決算日	2021年5月10日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	7,662	7,953	7,998	7,812	6,987	8,571
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	240	240	240	230	120
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	7.1	3.6	0.7	△7.9	24.6
純資産総額 (百万円)	3,918	3,602	3,080	2,661	2,097	2,181

(注) 運用方針に合った適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

国内債券市場では、長期金利（10年国債利回り）は、2021年1月まで0%近辺の狭いレンジで推移しましたが、新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大と米国の大規模な財政政策を背景とした景気回復観測や、インフレ期待の高まりから、2月に入ると世界的に上昇する展開となりました。加えて、日銀が金利変動を高める政策を打ち出すとの観測もあり、長期金利は一時0.175%まで上昇しましたが、3月中旬以降は落ち着き、0.06~0.12%程度のレンジで推移しました。

外国債券市場では、各国経済の正常化見通しの高まりや、景気回復期待に伴う資源価格の上昇を背景としたインフレ期待の上昇などを受けて、主要国の債券利回りが上昇（価格は下落）しました。特に作成期の後半、新型コロナウイルスのワクチン開発の成功や接種開始が、各国の経済正常化の見通しを大きく後押しし、利回り上昇は大幅なものとなりました。当ファンドが主に投資する残存年数5年程度の国債利回りも、概ね上昇しました。

国内株式市場は、作成期初から2021年3月中旬までは、米国大統領・連邦議会選挙を終え、米政治を巡る不透明感が後退したこと、新型コロナウイルスのワクチン普及による経済正常化への期待が高まったことなどから、上昇しました。3月下旬から作成期末までは、新型コロナウイルスの感染再拡大懸念や米国の金融緩和政策の修正懸念などから、軟調な展開となりました。

外国株式市場は上昇しました。新型コロナウイルスの感染再拡大や米長期金利上昇を嫌気して一時的に軟調に推移する局面も見られましたが、米バイデン政権による経済対策や新型コロナウイルスのワクチンの早期普及に対する期待感、好調な経済指標と企業業績に支えられながら、作成期を通じて上昇基調で推移しました。

国内リート市場は上昇しました。2020年12月上旬にかけては、公募増資の発表に伴う需給悪化懸念などが上値を抑え、J-R E I T市場はもみ合いで推移しました。その後は、米国における大規模な経済対策や、国内における新型コロナウイルスのワクチン接種に対する期待などから上昇傾向が継続しました。

米国リート市場は大きく上昇しました。作成期初は、米国大統領選挙が終了し先行き不透明感が和らいだことや、新型コロナウイルスのワクチン開発が進展したことなどが追い風となりました。作成期半ば以降は、長期金利の上昇に対する警戒感が強まったものの、大型の追加経済対策法案が成立したことや、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み経済が正常化に向かうとの見方が広がったことなどを背景に上昇しました。セクター別では、小売りリートが大きく上昇しました。

米国以外の海外リート市場については新型コロナウイルスのワクチン開発の進展や普及への期待から上昇しました。欧州市場は、一部の国における都市封鎖を受けて下落する局面もありましたが、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和策の維持・強化が支援材料となりました。アジア市場では、リートによる大型の買収も好材料となりました。オーストラリア市場は、米長期金利に連動して豪長期金利が上昇したことが重しとなり、相対的に上昇幅は抑えられました。

投資国の米ドル建て新興国債券市場では、新型コロナウイルスが世界規模での感染拡大を見せる中、市場のリスクセンチメントが悪化したことなどから、米回国債との金利差は拡大しました。投資国の現地通貨建て国債市場では、政策金利の引き下げなどを受けて短中期ゾーンを中心に国債利回りは低下（価格は上昇）したものの、南アフリカでは格下げに伴いインデックスファンドの投資対象から除外されたことなどを受けて、長期ゾーンでは国債利回りが上昇しました。

新興国株式市場は、前半は、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、ワクチン開発が進展するなど経済再開への期待が高まり、市場は上昇しました。後半は、新型コロナウイルスの感染再拡大や米国での長期金利上昇への懸念などから、市場は下落しました。原油上昇の影響を受けたロシアが上昇する一方、中国政府による財政・金融政策の正常化姿勢などを受けて中国は軟調に推移しました。

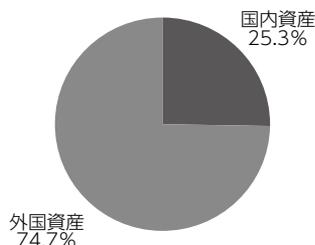
為替市場では組入対象通貨において円安が進みました。ドル／円相場は、米国の長期金利の上昇による内外金利差拡大等を背景に円安ドル高の動きとなりました。一方、その他通貨に対しても、各国の長期金利上昇による内外金利差拡大等を背景に、新興国を含む多くの通貨に対して円安現地通貨高となりました。

ポートフォリオについて

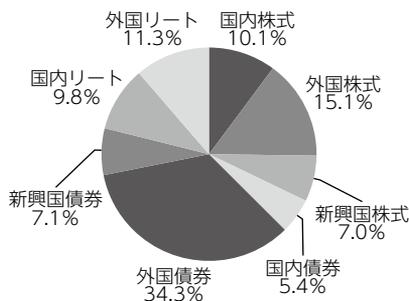
当ファンドでは、マザーファンドを通じて国内外の株式、債券およびリートと、新興国の株式・債券の8資産に投資を行いました。また、組入れる8資産の保有比率が基本資産配分比率に維持されるように資産配分を行いました。

決算日（2021年5月10日）現在の組入比率

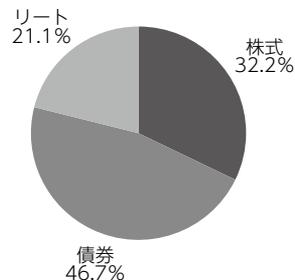
国内・海外に分散投資



国内・海外8つの資産に分散投資



株式・債券・リートに分散投資



※リートとは不動産投資信託証券のことです。

※1 比率は各マザーファンドの評価額の合計に対する割合です。

※2 国内株式：D I A M日本好配当株オープン・マザーファンド、外国株式：D I A M世界好配当株オープン・マザーファンド、新興国株式：D I A M B R I C s 株式マザーファンド、国内債券：国内債券アクティブ・マザーファンド、外国債券：高金利ソブリン・マザーファンド、新興国債券：D I A M新興国債券マザーファンド、国内リート：J - R E I Tオープン・アクティブ・マザーファンド、外国リート：D I A M U S ・リート・オープン・マザーファンド、D I A M インターナショナル・リート・インカム・オープン・マザーファンド

●国内債券アクティブ・マザーファンド

デュレーション*・イールドカーブ戦略は、長期金利の上昇基調が継続する中、超長期ゾーンをアンダーウェイトとするデュレーション短期化戦略を維持しました。クレジット戦略では、高めの利回り収益が期待できる事業債等を多めに保有する戦略を維持しました。

※金利変動に対する債券価格の変動性。

●高金利ソブリン・マザーファンド

作成期初は新型コロナウイルスの世界経済への影響を見極めるべく、米国、シンガポール等の比較的安全資産の組入れを高位とし、マレーシア、英国等の組入れを低位としました。作成期の後半、投資家のリスクセンチメントの改善に伴い、ノルウェー、カナダ等の資源国の組入れを増やしました。

●D I A M日本好配当株オープン・マザーファンド

予想配当利回りが市場平均と比較して高いと判断した銘柄を中心に投資を行いました。銘柄の選定にあたっては業績動向、財務内容の健全性などに留意した上で、今後高水準かつ安定的な配当を予想する銘柄を中心に選別しました。この結果、東証33業種分類では、電気機器、化学、卸売業などの組入比率を高めました。

●D I A M世界好配当株オープン・マザーファンド

銘柄選択においては、「地域の分散」、「業種の分散」に着目し、世界の好配当株への投資を通じて、安定した配当収益の確保と中長期的な値上がり益の確保をめざした運用を行いました。地域別では、概ね前作成期末と同様の資産配分を維持しました。業種別では、幅広い業種に分散投資を行う中、公益やヘルスケア、生活必需品セクターのウェイトを引き下げた一方で、金融や情報技術セクターのウェイトを引き上げました。

●J-R E I Tオープン・アクティブ・マザーファンド

相対的に割安な銘柄や業績安定感がある銘柄を中心に運用を行いました。当作成期間については、一部の大型物流施設銘柄の一部売却などを実施しました。

●D I A M US・リート・オープン・マザーファンド

適正価格に到達したと見られる銘柄については、適宜入れ替えを行いました。また、米国景気の先行きや金利の動向も注視しつつ、保守的な財務体質かつ長期的に見て成長見込みがある銘柄や、割安な水準にある銘柄を選別して投資しました。小売りや住居施設などの組入比率を引き上げた一方、その他（データセンター、倉庫等）や工業などの組入比率を引き下げました。

●D I A M インターナショナル・リート・インカム・オープン・マザーファンド

保守的な財務体質かつ配当成長の見込めるキャッシュフローの安定した銘柄を選別して投資を行いました。また、適正価格に到達した銘柄は適宜入れ替えを行いました。地域別では、オーストラリアやカナダなどの組入比率を引き上げた一方、シンガポールや香港などの組入比率を引き下げました。また、用途別では、混合型などの組入比率を引き上げた一方、工業などの組入比率を引き下げました。

●D I A M新興国債券マザーファンド

主として、ブラジル、メキシコ、ロシア、トルコが発行する米ドル建て国債を組入れたほか、一部南アフリカとメキシコの現地通貨建て国債を保有しました。

● D I A M B R I C s 株式マザーファンド

計量モデルを活用し、割安性・成長性に着目し、企業ファンダメンタルズを総合的に評価の上、投資魅力度の高い銘柄の選定を行いました。業種配分については、一般消費財セクター・素材セクターがオーバーウェイトで、資本財セクター・金融セクターがアンダーウェイトとなっています。国別配分については、ブラジルがオーバーウェイトで、インドがアンダーウェイトとなっています。

■ 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第163期	第164期	第165期	第166期	第167期	第168期
	2020年11月10日 ~2020年12月8日	2020年12月9日 ~2021年1月8日	2021年1月9日 ~2021年2月8日	2021年2月9日 ~2021年3月8日	2021年3月9日 ~2021年4月8日	2021年4月9日 ~2021年5月10日
当期分配金（税引前）	10円	10円	10円	10円	10円	10円
対基準価額比率	0.13%	0.13%	0.12%	0.12%	0.12%	0.12%
当期の収益	10円	10円	10円	10円	10円	10円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	148円	155円	157円	166円	182円	191円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

当ファンドでは、今後も各資産の保有比率が基本配分比率に維持されるように各マザーファンドへの投資を実施します。マザーファンドの組入比率につきましては、高位組入れを維持します。

●国内債券アクティブ・マザーファンド

世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が開始され、コロナ禍からの回復への期待が高まる中、当面の長期金利（10年国債利回り）は昨年までの水準よりやや高め0.10%を中心としたレンジ圏での推移を予想しています。デュレーション戦略および先物ヘッジ戦略は、引き続き機動的なコントロールを継続します。クレジット戦略は、日銀による政策支援の恩恵から良好な環境が続いており、引き続き高い利回りが期待できる事業債を多めに保有する戦略を継続する方針です。

●高金利ソブリン・マザーファンド

今後は、世界経済の正常化が焦点となり、投資家のリスク選好姿勢は続くものと予想します。従って、為替市場では対円で安定的な推移が期待できる一方、債券市場ではインフレ警戒から短期的には利回りに上昇圧力がかかると見ています。今後も一定以上の信用格付けを有する国の中から、為替予約取引の流動性、投資規制、市場規模等を勘案し、相対的に金利の高い通貨を選定し、各国の財政状況やファンダメンタルズ、インフレリスクを注視した運用を継続します。

●D I A M日本好配当株オープン・マザーファンド

国内株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済へのマイナス影響には留意が必要と考えますが、各国の経済対策や金融政策に支えられ、底堅い展開を想定します。ポートフォリオは、予想配当利回りが市場平均と比較して高いと判断する銘柄群から、高水準かつ安定的な配当を見込む銘柄を中心に選別します。組入銘柄の入れ替えに関しては、予想配当利回りが低下した銘柄、減配リスクが顕在化すると判断する銘柄などを売却します。

●D I A M世界好配当株オープン・マザーファンド

今後の外国株式市場は、各国中央銀行の大規模金融緩和や各国政府の財政出動、および新型コロナウイルス用ワクチン普及への期待が支えになる一方、一部地域における感染拡大状況に揺さぶられやすい相場展開を想定します。運用方針としては、配当利回りが市場平均以上であり、利益およびキャッシュフローの成長性が高く、将来的にも十分な配当が期待できる銘柄への選別投資を継続します。

●J-R E I Tオープン・アクティブ・マザーファンド

引き続き、新型コロナウイルスの新規感染者数の動向やワクチンの状況に関わる様々な報道に一喜一憂する展開が想定されます。一方、国内リートの安定的な業績や健全な財務体質などが投資口価格の下支え要因になると考えており、下値は底堅いと考えています。純資産価値やその創出するキャッシュフローをベースにした価値から判断して割安感の強い銘柄を中心に保有する方針です。

● D I A M US・リート・オープン・マザーファンド

新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、米国を含む一部地域では正常化が徐々に進んでいます。こうした中、市場の焦点はリートのファンダメンタルズの回復見通しと、金利の動向に移りつつあり、変動の大きな市場環境が当面は続く予想されます。引き続き財務体質が良好で、長期的な成長が期待できる銘柄を選別して投資する方針です。また、割安な水準にある銘柄にも投資することにより、比較的高い配当利回りを維持できるポートフォリオを構築していきます。

● D I A M インターナショナル・リート・インカム・オープン・マザーファンド

経済正常化への期待と金利上昇への警戒感が交錯し、リート市場はやや不安定な展開も予想されます。こうした中、欧州市場は、オフィスや物流をはじめ、安定したキャッシュフローが期待しやすい銘柄に重点的に投資を行っていく方針です。オーストラリア市場は、倉庫や物流、オフィス、小売り等のうち財務体質や成長性、配当利回りといった点に優れる銘柄を選別し投資する方針です。アジア市場は、物流など構造的な成長要因があるセクターに投資を行っていく方針です。

● D I A M 新興国債券マザーファンド

新興国債券市場については、世界的な景気後退が予想される中、相対的にリスク要因の少ない新興国を中心に投資妙味があると見込んでいます。また、米国や欧州圏の経済動向およびそれに伴う金融政策に影響を受けやすい展開を想定しています。今後も組入対象国の経済情勢や投資環境には十分留意しつつ、現状の組入れを維持する方針です。

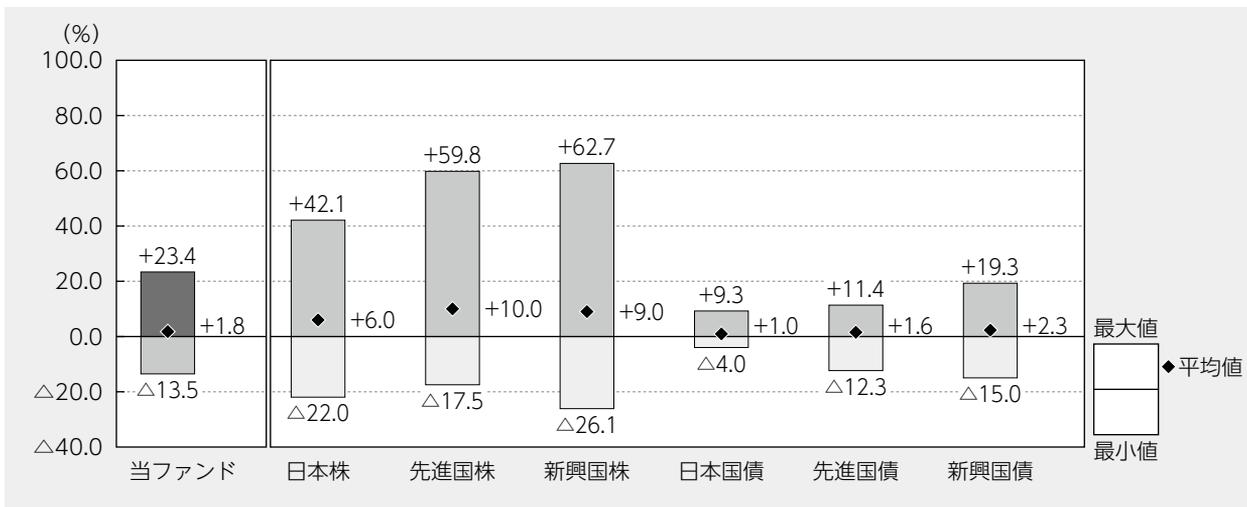
● D I A M B R I C s 株式マザーファンド

新型コロナウイルスの新規感染者数は、ワクチン接種が進みつつあるアメリカなどでは減少傾向にあります。新興国などでは未だに高水準にありますが、ワクチン接種が進むことでいずれ抑制に向かうと考えます。運用方針としては、成長性とクオリティに注目し、業績見通しの確度が高い企業の選定に注力します。割安銘柄を拾う動きにも引き続き注意を払い、ファンドの運営を行います。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2007年5月23日から無期限です。	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。	
主要投資対象	DIAMグローバル・アクティブ・バランスファンド	以下の各マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	国内債券アクティブ・マザーファンド	国債、国内企業の発行による普通社債、転換社債等を主要投資対象とします。
	高金利ソブリン・マザーファンド	高金利国のソブリン債券を主要投資対象とします。
	DIAM日本好配当株オープン・マザーファンド	主としてわが国の証券取引所（新興市場を含む）に上場している全銘柄を投資対象とします。
	DIAM世界好配当株オープン・マザーファンド	日本を除く世界各国の株式を主要投資対象とします。
	J-REITオープン・アクティブ・マザーファンド	東京証券取引所に上場し、東証REIT指数に採用されている（または採用予定の）不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
	DIAM US・リート・オープン・マザーファンド	米国の証券取引所に上場もしくは上場に準ずる不動産投信等の投資信託証券を主要投資対象とします。
	DIAM インターナショナル・リート・インカム・オープン・マザーファンド	米国および日本を除く世界各国の証券取引所に上場もしくは上場に準ずる不動産投信等の投資信託証券を主要投資対象とします。
	DIAM新興国債券マザーファンド	新興国のソブリン債券を主要投資対象とします。
	DIAM BRICS 株式マザーファンド	ブラジル、ロシア、インド、中国の株式を主要投資対象とします。
運用方法	<p>各マザーファンドの受益証券への投資を通じ、実質的に国内外の債券、株式、不動産投資信託証券への分散投資を行います。</p> <p>各マザーファンド受益証券の組入比率については、委託会社が定める基本資産配分比率に基づき投資を行います。ただし、国外の不動産投資信託証券へ投資するマザーファンドについては、各マザーファンドの純資産総額を合算して資産配分を算出します。</p> <p>各マザーファンド受益証券の時価の変動等により各マザーファンドの純資産総額が基本資産配分比率から一定量以上乖離した場合には、各マザーファンド受益証券への投資割合を基本資産配分比率に近づけることとします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジは行いません。</p>	
分配方針	<p>決算日（原則として毎月8日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として、毎月の収益分配については、利子配当等収益を中心に安定した収益分配を継続的に行うことをめざします。また、四半期（1月、4月、7月、10月）の決算時には、利子配当等収益に売買益（評価益を含みます。）等を加えた額から分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2016年5月～2021年4月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2021年5月10日現在）

◆組入上位ファンド等

（組入ファンド数：9ファンド）

	第168期末
	2021年5月10日
高金利ソブリン・マザーファンド	33.9%
D I A M世界好配当株オープン・マザーファンド	14.9
D I A M日本好配当株オープン・マザーファンド	10.0
その他	41.2

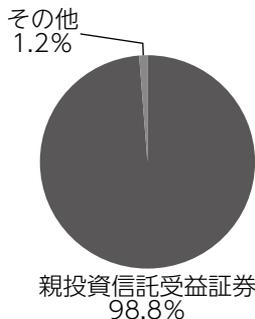
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入全ファンドに関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

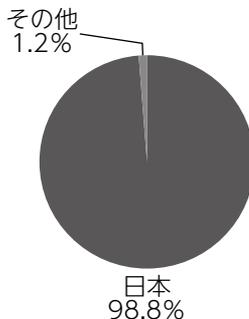
（注3）組入上位以外のファンドはその他に含めて集計しています。

（注4）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

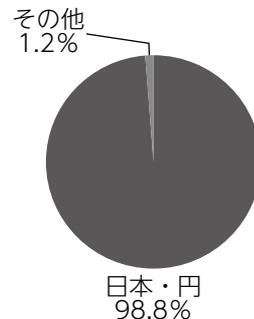
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

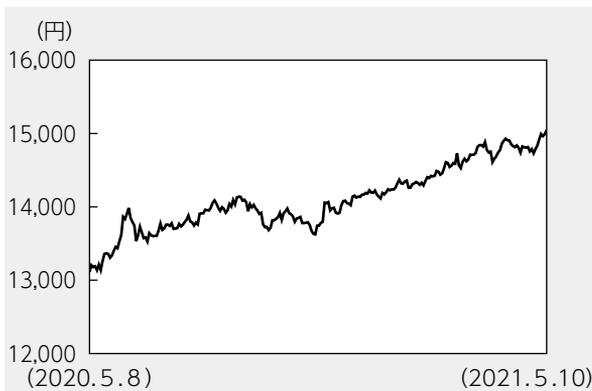
項目	第163期末	第164期末	第165期末	第166期末	第167期末	第168期末
	2020年12月8日	2021年1月8日	2021年2月8日	2021年3月8日	2021年4月8日	2021年5月10日
純資産総額	2,170,250,354円	2,188,773,807円	2,215,865,621円	2,130,859,286円	2,160,591,247円	2,181,788,256円
受益権総口数	2,793,940,877口	2,766,093,360口	2,734,504,848口	2,607,218,238口	2,567,767,536口	2,545,633,357口
1万口当たり基準価額	7,768円	7,913円	8,103円	8,173円	8,414円	8,571円

（注）当作成期間（第163期～第168期）中における追加設定元本額は796,815円、同解約元本額は272,203,526円です。

組入上位ファンドの概要

【高金利ソブリン・マザーファンド】（計算期間 2020年5月9日～2021年5月10日）

◆基準価額の推移



◆組入上位10銘柄

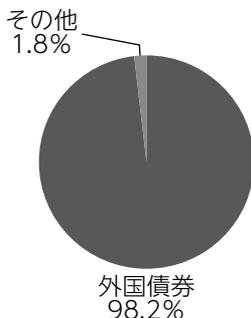
銘柄名	通貨	比率
NORWAY 1.5 02/19/26	ノルウェー・クローネ	12.1%
UK TREASURY 0.625 06/07/25	イギリス・ポンド	10.4
SINGAPORE 2.375 06/01/25	シンガポール・ドル	10.3
US T N/B 0.375 04/30/25	アメリカ・ドル	9.9
CANADA 1.25 03/01/25	カナダ・ドル	9.7
POLAND 2.5 07/25/26	ポーランド・ズロチ	9.2
THAILAND 1.45 12/17/24	タイ・バーツ	8.8
NEW ZEALAND 2.75 04/15/25	ニュージーランド・ドル	7.7
AUSTRALIAN 0.5 09/21/26	オーストラリア・ドル	5.6
MALAYSIA 3.906 07/15/26	マレーシア・リンギット	4.7
組入銘柄数	13銘柄	

◆1万口当たりの費用明細

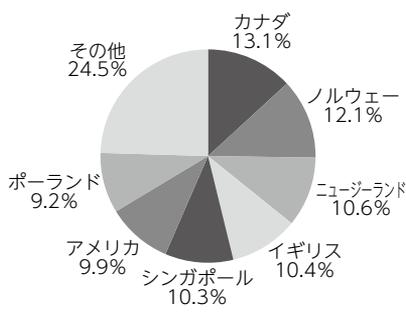
項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用) (その他)	7円 (7) (0)	0.047% (0.047) (0.000)
合計	7	0.047

期中の平均基準価額は14,111円です。

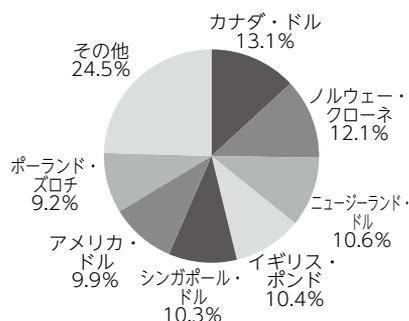
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

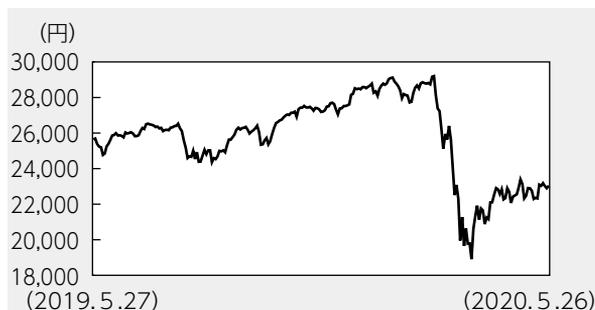


- (注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。
- (注2) 「1万口当たりの費用明細」期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。なお、項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
- (注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
- (注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注6) 国別配分は発行国（地域）を表示しています。
- (注7) 上位8位以下がある場合はその他に含めて集計しています。
- (注8) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

[D I AM世界好配当株オープン・マザーファンド]

(計算期間 2019年5月28日～2020年5月26日)

◆基準価額の推移



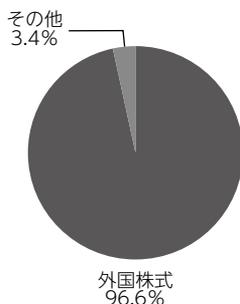
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ・ドル	3.4%
MERCK & CO.INC.	アメリカ・ドル	3.0
MCDONALD'S CORPORATION	アメリカ・ドル	2.7
ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	スイス・フラン	2.6
NOVARTIS AG-REG SHS	スイス・フラン	2.5
MICROSOFT CORP	アメリカ・ドル	2.3
ASTRAZENECA PLC	イギリス・ポンド	2.2
ABBVIE INC	アメリカ・ドル	2.2
SANOFI	ユーロ	2.1
NATIONAL GRID PLC	イギリス・ポンド	2.1
組入銘柄数		87銘柄

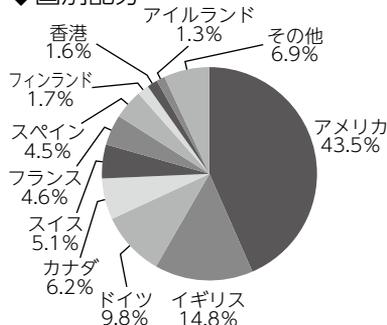
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	6円 (6)	0.025% (0.025)
(b) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	5 (4) (0)	0.018 (0.017) (0.001)
合計	11	0.043

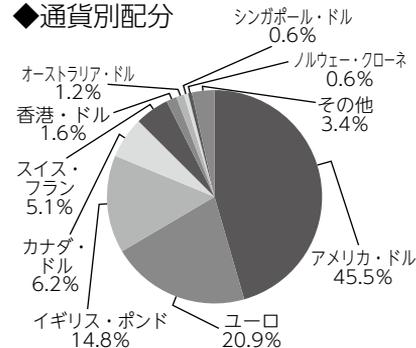
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(25,740円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄・資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

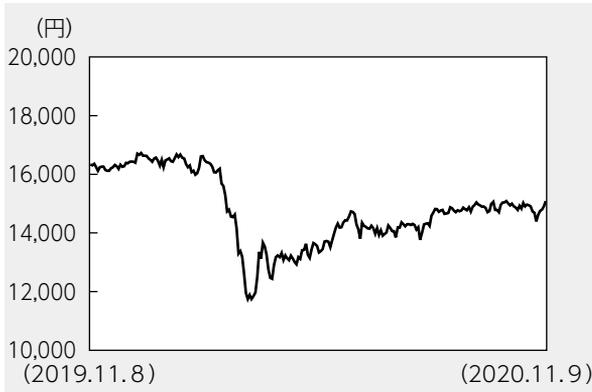
(注5) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注6) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【D I AM日本好配当株オープン・マザーファンド】

◆基準価額の推移



(計算期間 2019年11月9日～2020年11月9日)

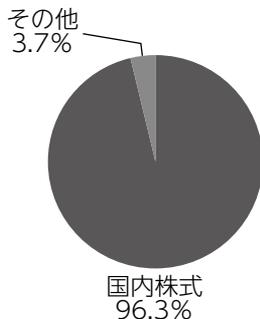
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
トヨタ自動車	日本・円	4.3%
伊藤忠商事	日本・円	4.0
アサヒホールディングス	日本・円	3.5
三菱瓦斯化学	日本・円	3.2
日本電信電話	日本・円	3.1
KDDI	日本・円	3.1
武田薬品工業	日本・円	2.9
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	2.7
SBIホールディングス	日本・円	2.7
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	2.7
組入銘柄数	67銘柄	

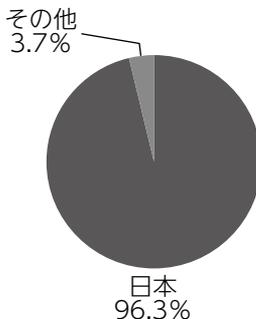
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	23円 (23)	0.156% (0.156)
合計	23	0.156

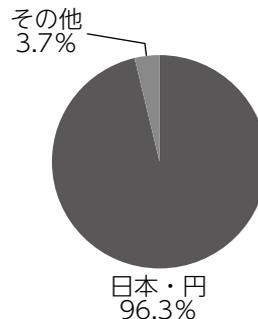
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(14,773円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

